1. 調 査 報 告 概 要 表

作成日 平成19年9月3日

【評価実施概要】

事業所番号	2170500801
法人名	株式会社 プラス
事業所名	グループホーム あかり(各務原苑)
所在地 (電話番号)	各務原市各務山の前町3丁目23-1 (電 話) 058-385-5545

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年7月18日

【情報提供票より】(19 年 7 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成	15	年	10	月	1	日			
ユニット数	2 ユ	ニット	利用第	定員数詞	計		18	人		
職員数	14	人	常勤	10 /	人,非		4 人,	常勤換算	5.4	人

(2)建物概要

建物煤等	鉄骨	造り	
建物博坦 —	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,0	000 円	•	その他の約	圣費(月額)	21,000	円
敷 金	有(円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無)		円)	有りの [:] 償却の		有/無	
	朝食	150		円	昼食	250	円
食材料費	夕食	250		円	おやつ	150	円
	または1	日当たり			円		

(4)利用者の概要(6月27日現在)

利用	者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要2	介護1	6	名	要介護2	3	名
要2	介護3	5	名	要介護4	3	名
要2	介護5	1	名	要支援2	0	名
年齢	平均	81.5 歳	最低	69 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	東海中央病院、	五島医院、	足立歯科医院
	WW. 1. 7/ WINDLY	TT 110 127 19 1 1	

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームあかりは、各務原市郊外の畑や小高い各務山の緑が豊かな住宅 地に位置している。ホーム内は居間の窓から濃い緑が目に入り落ち着いた雰囲気 をもっている。代表者、ホーム長の強いリーダーシップのもとでサービスの質の向 上を具体的に且つ、着実にすすめている。地域との関係作りにおいては根気よい 働きかけを続けた結果、徐々に理解を得てよい関係ができている。運営推進会議 の活用や地域とのつながりをより深める努力と、豊かな利用者の地域生活を目指し 理念に振り返りながら取り組みを続けている。

【重点項目への取り組み状況】

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)

重 地域とのネットワークづくり、市町村の関わりについては地域の特性を理解しながら根 |気ある働きかけをしていてその成果が表れている。 職員の研修については研修報告を 共有する体制を作っている。

|今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)

外部評価の機会を活かして自己評価はホーム長・主任がスタッフの意見を聞くことで具 体的な改善を図ることにつなげる努力をしている。

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4.5.6)

自治会長、民生委員、家族、利用者、市町村、職員(ホーム長か主任)で構成し、昨年 9月から行なっている。また、運営推進会議の進め方、入居者紹介やボランティア紹介 についてなど様々なことについて相談するなど市町村とのかかわりを深めている。

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7.8)

月1回一人ひとりの利用者の近況と会計報告、職員の異動についてもお便りで報告し ている。意見箱の設置と外部への苦情窓口を重要事項説明書や口頭で伝えて家族の 意見、不満等を受け止める体制を作っている。

日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

重

項 自治会(協賛)に入っていて、ホームの近隣の高齢者の集まりやおしゃべりの会がある と、声をかけてもらえる関係はできている。 **(4**)

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)			
I. 理	[.理念に基づく運営							
1.	理念と	共有						
		〇地域密着型サービスとしての理念						
1		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	尊厳と自己決定をキーワードとして理念を作り上げている。					
		〇理念の共有と日々の取り組み						
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に 向けて日々取り組んでいる	ケア会議などで理念に振り返りながら実践の検討をし ている。					
2. ±	也域との							
		〇地域とのつきあい						
3		事業所は孤立することなく地域の一員として、自 治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地 元の人々と交流することに努めている	自治会(協賛)に入っていて、ホームの近隣の高齢者の集まりやおしゃべりの会があると、声をかけてもらえる関係がある。					
3. ¥	里念を実	ミ践するための制度の理解と活用						
		○評価の意義の理解と活用						
4	,	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の機会を活かして自己評価はホーム長・主任 がスタッフの意見を聞くことで具体的な改善を図ること につなげる努力をしている。					
		〇運営推進会議を活かした取り組み						
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、家族、利用者、市町村、職員 (ホーム長か主任)で構成し、昨年9月から行なってい る。					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(0印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外に も行き来する機会をつくり、市町村とともにサービ スの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の進め方、入居者紹介やボランティア紹介についてなど様々なことについて相談をして市町村とのかかわりをもっている。		
		○家族等への報告			
7	14	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金 銭管理、職員の異動等について、家族等に定期 的及び個々にあわせた報告をしている	月1回一人ひとりの利用者の近況と会計報告をしている。職員の異動についてもお便りで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員なら びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に 反映させている	意見箱の設置と外部への苦情窓口を重要事項説明書や口頭で伝えて家族の意見、不満等を受け止める体制を作っている。現在のところこれを利用された方はいないが口頭で直接入浴や衣服のことで希望をうけることがあった。		
		〇職員の異動等による影響への配慮			
9	18	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所当初は異動が多かったが運営者とホーム長で話し合い職員の教育に取り組み、現在は異動も少なく利用者も落ち着きがみられるようになった。		
5. ,	人材の習	育成と支援			
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成す るための計画をたて、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	職員教育の重要性を認識していて、計画的に外部及び内部の教育に取り組んでいる。新人教育においてはユニットリーダーが教育マニュアルのもとで独り立ちを確認するまで実勢教育を行なっている。		
		〇同業者との交流を通じた向上			
11	20	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流 する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相 互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取り組みをしている	ホーム長が会議や研修等で知り合ったことをきっかけに他のグループホームと交流したり、他の事業所からの研修を受け入れるなどしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(0印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)				
П.5	Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 🔻	1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
		○馴染みながらのサービス利用							
12	26	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始までに1回はホームで本人と面接をしている。						
2. ₹	新たな関	関係づくりとこれまでの関係継続への支援							
		〇本人と共に過ごし支えあう関係							
13	27		畑仕事などで肥料の使い方の指導を受けたりして共に 楽しんでいる。						
Ш.	その人	、らしい暮らしを続けるためのケアマネジ	メント						
1	一人ひと	とりの把握							
		○思いや意向の把握							
14	33	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常の会話の中から本人の思いを察して、他に生きがいとなることを職員が考えアドバイスをしている。						
2. 7	本人が。	より良く暮らし続けるための介護計画の作成と							
		〇チームでつくる利用者本位の介護計画							
15	36	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人からは思いや意見を直接聞いたり、家族の面会時の会話等を普段からメモし、家族の意向をケアプラン作成に入れて同意のもとで実施している。						
		〇現状に即した介護計画の見直し							
16	37	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、 見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、 本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即 した新たな計画を作成している	本人の言葉をメモしたものや介護日誌等で、本人、家 族の要望を取り入れ期間終了時の見直しや、その都度 介護計画の見直しがなされている。						

自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(0印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
39	本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして	自宅の草取りや持ち物を取りに帰るとき同伴したり、銭 湯での入浴を希望した利用者に同伴したりするなど本 人の要望に応じて、臨機応変に特別な外出支援を 行っている。		
人がよ	り良く暮らし続けるための地域資源との協働	h		
43	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得ら	月1回の定期往診が実施され、本人、家族の希望により従来からのかかりつけ医の受診の支援ができている。		
47	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有	医師、家族と話し合い家族の意思の確認後、重度化や終末期に向けた対応がなされている。		
-				
	— — — — — — — — — — — — — — — — — — —			
	<u> </u>			
ΕO	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言	職員の入居者への言葉がけはさりげなく対応し、またプライバシーを配慮する言葉かけもなされている。		
52	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように	昼食後は部屋で過ごす人や、学習療法を自分で望ん でいる利用者のペースに合わせ支援等がなされてい る。		
	39 39 43 47 47 50 50	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている ・人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 ・○かりつけ医の受診支援 43 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している ・●の人らしい暮らしを続けるための日々の支援 ・○人ひとりの尊重 ○プライバシーの確保の徹底 ・○人ひとりの尊重 ○プライバシーの確保の徹底 ・○日々のその人らしい暮らし ・○日々のその人らしい暮らし	□ ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	□ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 「お すますの多様能性を活かした柔軟な支援をしている。 「

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(0印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)			
(2)	(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援							
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	ホームで採れた旬野菜が調理されたものを本人、職員 全員で同じものを一緒に食べている。また、片付けもで きる人は手伝っている。ユニットごとの献立は独自であ る。					
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入 浴を楽しめるように支援している	週に2回の入浴がなされ、人によっては3回の入浴支援が行われている。本人の希望により、長湯の人は入浴順序の工夫がされ、入浴困難な人にはバスリフトを活用している。					
(3)	その人	らしい暮らしを続けるための社会的な生活の	支援					
24	59	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみご と、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力が発揮してもらえるように、お願いできそうな仕事を頼んでいる。また、職員の工夫によって外食や雨だから出かけれないのではなく、コインランドリーに一緒に出かけて気晴らしの支援をしている					
25	61	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその 日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援 している	毎日の暮らしの中で散歩が日課となっているが、食事 の買い物に職員と同行して外出の機会を支援してい る。					
(4)	安心と	安全を支える支援						
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵 をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけない ケアに取り組んでいる	活動が活発で外に出る可能性のある利用者に対しては身体福祉用具を活用するなど、拘束廃止に対しての取り組みが前向きである。					
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより 地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署による避難訓練の実施がされている。また蘇生法などの講習の際には地域住民にも声をかけ参加してもらっている。運営推進会議のメンバーの声かけ協力も得られ災害訓練や避難協力体制の話し合いをしている。					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	食事摂取量は毎食後記入チェックされており、水分量は大まかに一日の食事や一日2回のおやつで摂取がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81		リビングルームは窓から緑の見える落ち着いた場所で 安心感があり、職員がなかなか手の掛けれない部分に は清掃の方が毎日入り床などは清潔である。		
30		〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	利用者の好みで自分の部屋をレイアウトして個性のある部屋作りがなされていて入居者にとって居心地のよい部屋作りができている。		